

信號旗識別上種類區分ノ件并
改良方附物品目錄書ニ關スル
意見書及針路報知器考按書

官房三九九四

三十年十一月十九日

主務



主事

淨寫

校合

發付 府

十二月廿日



立案者

大臣

次官



軍務局長



機關課長



課長



軍事課長



訓令

海軍信稱標の遠距離に於て交易の便利を

目的として採入せしむべき標を先ん立寄るべき

片列は、稱標下現今通用の稱標下両名相違

を採り改良必要とす候其標下は、於て充分な

二

母

目

希種類(區別方)ニ關スルハ是也

経略之上條檣檣別^候及條檣檣別ノ結果ヲ
詳細申出^レシ

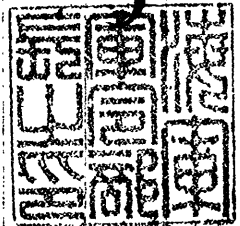
但現存ノ字務高長^ノ字^ヲ送付セ^ルム

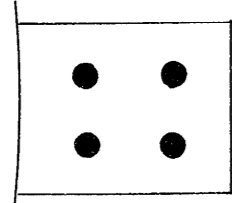
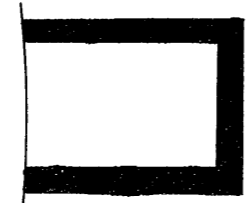
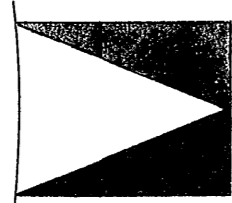
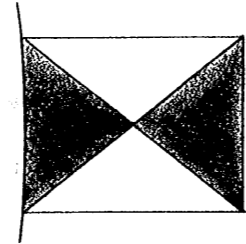
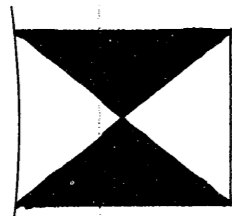
明治三十年十一月三十日

大臣

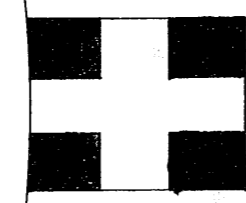
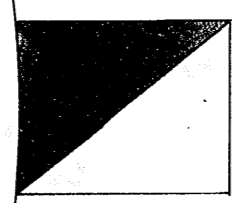
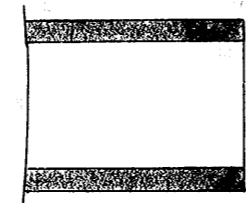
常備艦隊司令長官 先

此後... 於... 實... 後... 復... 也
 明... 三... 年... 九... 月... 廿... 六... 日...
 海軍... 令... 長... 官... 伊... 東... 祐... 吉...
 海軍大臣侯爵岩谷道麿殿

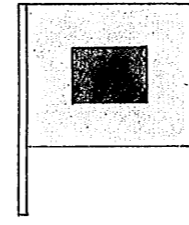
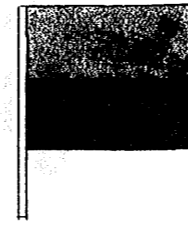
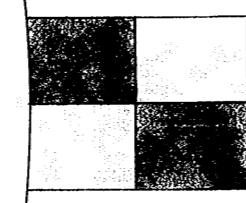




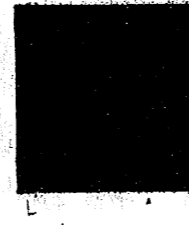
直方丸イニ



三ツツツツツツ



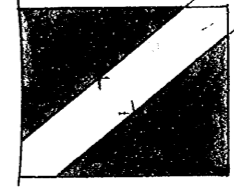
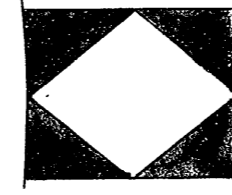
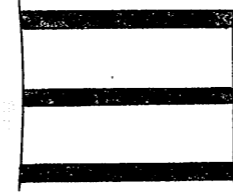
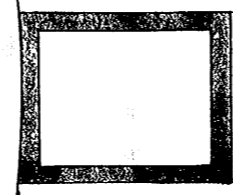
黒丸イニ



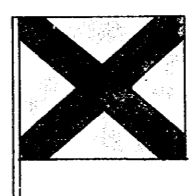
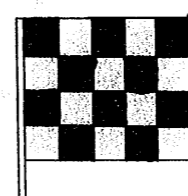
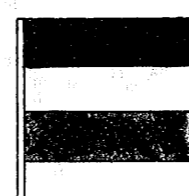
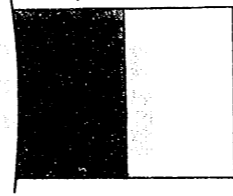
黒丸イニ



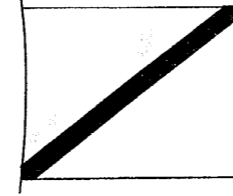
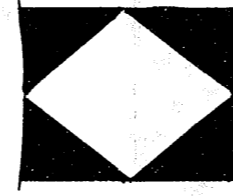
黒丸イニ



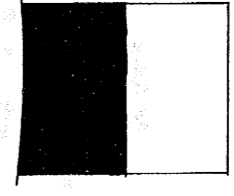
黒丸イニ



黒丸イニ



黒丸イニ



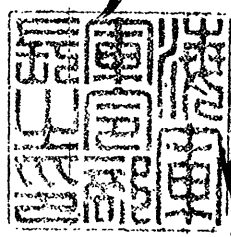
0742

經理局

第六〇号

第三六一号

軍艦ノ信號旗大中小三種ニ區別シ艦ノ大中小
 應シ供給ノコトニ依テ豫定相成居共取友
 所第四八ノ號ニテ以テ所照會相成了
 中艦ニ此二種ノ内就カテ適否ニテ應
 用ニテハ海軍省ノ旨告ヲ減シ出師準備上ニモ
 好都合ニテ取成又通シテ完全セシムル點
 ニ於テ遺憾ナカレバ依テ大中小二種ニ區別
 多ク得策ト被存候也及所為也
 明治三十九年十二月十九日
 海軍大臣長子爵伊東祐亨
 海軍大臣長子爵西郷從道 殿



伊東祐亨

西郷從道

海軍大臣

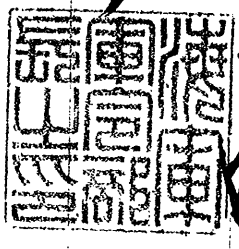
0743

本件

別

本件

二區別し、艦、文中
 相成居共板友
 所照會相成了
 市、二種之屬別
 通為、ナニナリ、應
 出師準備の上ニモ
 可完全セシムル、點
 小、二種ニ區別
 及、師、考、也、
 小、秋、亨、
 海、
 軍、



本件、守令、都多、有、存、兩、議、二、也、并、
 別、三、回、之、ヲ、安、久、理、係、二、年、

本件、守令、都多、有、存、兩、議、二、也、并、
 別、三、回、之、ヲ、安、久、理、係、二、年、

0720
 可、始、之、
 出、師、
 出、師、

本件、大、中、小、ノ、三、種、之、區、分、法、
 可、始、之、
 可、始、之、
 可、始、之、

第百八十六号

主事



淨馬

校合

御日協

三月九日

十九年三月

日

主務

立案者

課僚

大臣

次官



經理局長



第二課長



案

軍艦、信強、親、長、身、使、用、ノ、外、ニ、中、ノ、親、
疏、ヲ、増、加、シ、自、今、軍、艦、ノ、大、小、ニ、應、ジ、大、小、ニ、種、ノ、區、
別、ヲ、海、令、費、ニ、六、一、ノ、一、法、ニ、依、リ、予、以、信、多、
親、ハ、當、テ、大、中、小、中、七、中、四、中、ノ、三、種、ノ、區、別、ノ、親、天、中、

海

軍

小石之供給を工に豫定を以て在るは其尚更
 之より大小二種を區別せしむるは其尚更
 ノ如く大小二種を爲すに當りて是れ便利也ト
 云ふは其所以也其所以今之在るは其尚更
 此等之を以て其所以也其所以今之在るは其尚更
 亦其所以也其所以今之在るは其尚更

軍令部 長官

此等之を以て其所以也其所以今之在るは其尚更
 ノ如く大小二種を爲すに當りて是れ便利也ト
 云ふは其所以也其所以今之在るは其尚更

海軍部三十一

從來軍艦用之信旗一旗、其大一種

ニシテ小形ニ過キ通信上不都合ニ付艦船

大小ニ應レ三種ニ區別、義明治廿六年

九月廿七日付ヲ以テ及沙照会ニ要當時嚴嶋

姉妹艦以上ノ軍艦ニ當テ其一部

ヲ改正セラレタルニ止リ實際大巾艦ノ當テ

侍ヲ再々沖切議ノ事ニ相成居候然ルニ嚴嶋

等ハ既ニ當テ富士ノ島ニ道々本邦ニ回

航相成（キ）付テハ從來使用ノモノ、外ニ六巾ノ

旗（シ）增加シ益通信上ノ利益ヲ測ル可

キ時機到來莫依テ自今軍艦ノ大ニ應

レ大小ノ二種ニ區別相成度此段及テ

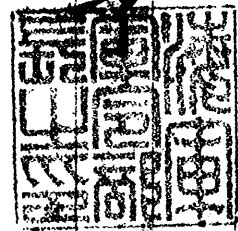
毎頁

照會候也

明治二十九年五月十九日

海軍軍令部長 青野伊東祐直

海軍大臣 候 青野 從道 殿



海

軍

供覽

軍務局長

七月二十日進達

陸軍省兵務部第六八號



兵務課

本部長

三善

参謀

三善

秘書

秘書

三十年七月廿二日進達

別紙山田大尉意見ハ現歐州海軍ニ於テ行ハク
 彼ノモクヲチニラ則チ海軍諸物件材料目錄トモ
 譯スヘキモノノ意ニテ我海軍ニ於テモ一モ此物品類別トモ
 云フヘキモノノ備付ケル中ニ方一海軍出師準備物件目錄等
 ニ非常ノ便宜ヲ求メ且ツ海軍部内ノ計運者ハ勿論尙モ其
 物品主管者ニ於テ其品價ヲ知ルノ必要アリ我海軍ニ於テ之ヲ
 各主管者ニ區分シ且ツ物件ヲ蒐集シ其品名ハイロハ合々
 トナシ且ツ上ニ番号ヲ附スルハ電話往復等ノ場合於テ其
 物件名称ノ長文字ヲ省キ單ニ番号ヲ以テ且ツ何ノ品モトヲ
 得ヘシ且ツ其下ニ學價表クハ時價ヲ記入シ況ク海軍部
 内ニ之レヲ配布スルモノトモ大ニ便宜アリト信セリ別紙大

英銀第二九四九號

陸軍省

尉、意見書ヲ添へ此段上申仕候也

明治三十年七月廿一日

水雷国水雷艇隊司令伊地知彦次郎

呉鎮守府司令長官男爵井上良馨白殿

我帝国海軍に於て現今採用ノ物品對シ大約
單價簿ヲ制定シ普ク部内ニ告示ノ方法ヲ設
ケテ之ト必要ト認メ以採用相成度意見開

申

我帝国海軍に於て採用スル現今兵器彈藥及各種ノ需
用品等ハ凡ク船團隊員ニテ上ノ將校ヨリ下ニ下士官ニ至ルモ
各其物品對シ必ス其主管或ハ擔任者ヲ指定セシメテ規定アリ
然ルニ其保存ノ見積リ、及取扱萬般ノ注意上ニ於テ豫メ
物品其物ノ大約價格ヲ識得シ置クハ從來其局ニ當リテ
屢其必要ヲ感スル所其稗益下實蹟ヲ舉ケ得ルトモ毎歲
少ニアラスト確信ス願ハクハ各主管等ノ屬スル品目ニテ明カナラ

毎

頁

之ムル為ノ各条款ノ分類ニ恰モハハシクテナリ
 如ク索引ノ便ナラシムル様番号ノ冒、厚價、記事(限制)
或ハ序数等必要ノ各項アルモノハ記事欄内ニ記入ヲ要スノ教項アル適當ノ一覽簿ヲ調製ス
 以テ普ク部内ニ告示ノ方法ヲ採用セリト冀望ニ堪ヘス
 右意見開申候也

明治三十年七月廿一日

才世守ノ水雷艦之長海軍大尉山田 亨



水雷團水雷艦隊司令海軍少佐伊地知彦次郎殿

四三三

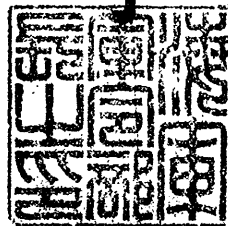
供覽

軍務局

海軍省 四四〇号

別紙之通、針路報知等考案
部員 浪田少佐、差出、
濠洲度乃、後、
三月廿七日

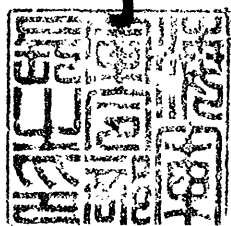
海軍省 青西郡送道殿



次官

本考案、至、
候得、其、
相、
明治三十五年

針路報知書考案
 於長子壽子東秋年
 壽西郎送道殿



0754

次官

本考案、至極有用、思致致
 條得其實地、該處、各艦於備
 相認程、必要、トモト相認候也
 明治三年二月十日
 軍務局



針路報知器案出ニ付申出

夫レ將校タルモノ航海中當直ノ勤務ニ服スルヤ其職責ハ繁多重大総テ載テ軍艦職負勤務令ニ詳ナリト虽モ軍艦ノ保安ヲ維持スルハ平戰兩時ニ論ナク實ニ重且ツ大ナル事件ナリトス殊ニ一旦抜錨外洋ニ出ツルヤ突ニ其頼ムトコロハ針路ノ正確如何ニテリ當直士官ハ百般ノ事業ヲ監督注意スルト同時ニ亦羅鍼ヲ監視シテ針路ノ正否ヲ注意シ殊ニ暗黒ノ夜ニ至ツテハ般ノ四周殊ニ其前程ノ安否ヲ注意スル為メ當直士官タルモノノ深ク神心ヲ澄スルハ吾人其經驗ニ乏シカラズ然レ氏吾人ノ眼目ハ暗夜ニ於テ一たび燈光ニ触ルニキハ若干時分ノ後ニ非ラザレバ再び前時ト同シク物体ヲ明視スルニ能ハズ燈光明ナレバ此眩度ハ益々高且長レントス然ルニ吾人ハ暗夜ノ當直勤務中一方ニ於テハ般ノ四周ヲ監視セントシ他方ニ於テハ燈光ヲ有スル羅鍼盤上ヲ監視シ其安否正否ヲ知ラントセバ吾人ノ眼目ニ及ブ所ノ關係ハ正ニ相反ス夫レ

22/12

船ノ四周ヲ監視シ及鐵路ノ正否ヲ監視スルトハ其關係スル結果ニ至
 ツテハ直接間接ノ差ハアルモ船ノ保安ヲ維持スルノ点ニ於テハ蓋シ一ナリ
 豈輕重ノ差イランヤ是ニ於テ吾人ハ眼以テ甲者ニ充テ耳以テ乙者ニ
 充ツルヲ得ハ則チ以テ此兩者ヲ満足スルヲ得ベシト信シ曩キハ小官
 職ヲ吉野水雷長ニ奉セン間若干ノ意思ヲ凝ラシ磁氣ト電氣トヲ應用
 シ一器ヲ案出シ羅鐵盤上針路ノ誤リヲ報知セシケルノ工夫ヲ計リ
 一二其機ノ製作ニ着手セシモ轉勤ノ為メニ遂ニ其完全ヲ見ルヲ得
 サリシ今マ職ヲ陸上ニ奉レ永ク其計畫ヲ喫筈底裡ニ埋藏スルモ亦
 甚ク遺憾ニ被存後由ツテ假リニ針路報知器ナル名ヲ附シ別冊說
 明書差出シ候ニ付何分御詮議之ヒ御採用相成候ハ、小官之微衷之
 レニ過キズ候此段敬而申出候也

三年三月二十二日

海軍少佐 依田光

軍令部長海軍中將子爵伊東祐亨 敬

0757

針路報知器説明書

海

軍

(11)

針路報知器

本器構成ノ大略ハ第一圖ニ示スカ如シ

4ハ磁鍼ヲ有スル一器ニシテ右ナル触点ヲ有シ右ヨリ各P及Sナル震鳴鐘ニ連絡シ此ヨリ右ナル電池ニ至ル電池ノ他端ハ一ノ電線ヲ經テ磁鍼ニ至ル

作用ノ大略

今航船正當ノ針路ヲ航進スル時ハ磁鍼ハ右ナル触点ニ隔絶スルヲ以テ電流通過セズ

茲ニ假リ、航船其針路ヲ右航方(面航)ニ偏シタルトスル時ハ磁鍼端ハ右触点ニ接シ直チニ電流全通シテ乃震鳴鐘ヲ鳴動シ以テ其針路ノ右航方ニ偏シタルヲ報ス可キナリ

若シ又テ航船左航方(取航)ニ偏シタル時モ同上ノ理由ヨリ乃震鳴鐘ヲ鳴動シ以テ其針路ノ左航方ニ偏シタルヲ報ス可キナリ

海軍省

S P なる震鳴鐘ノ音響ハ共ニ相異ナルヲ要ス

A 器ノ構成

第ニ番ハ平面ヲ三番ハカニ番ノ E C 切断面ヲ示ス

C ハ磁鐵ニシテ Q 杯中ニナル尖針上ニ安置ス 杯中ニハ水銀ヲ盛リ尺

ノ小針ヲ以テ C 磁鐵ト相通電氣ノ為ニス

D ハ調整装置ニシテ 磁石ノ照星尺ニ於ケル横尺装置ト相同シク左右

レ得可シ之トニ V ナル 維線(軟鉄ナシ)ヲ有ス此維線ハ電流通スルキハ

磁鐵端ト同名ノ磁極ヲ発生ナル如ク裝ス是レ本器ニ於テ緊要ノ一部

ナリ此維線ノ一端ニハ小尖針アリテ C 磁鐵端ト相接触スルニ供ス

E ハ指標 P ハ G H ニ番ノ固締螺兼回轉螺ナリ是レ P 中器ヲ

回轉シ以テ C 磁鐵ノ装置ノ適宜ノ位置ニ持テ来シラセラル

之レヲ固定スルニ供スレバナリ

G H C 磁鐵ノ納器ニシテ此ニハ装置上部ニハ羅盤板ノヲ裝シ方

洋

頁

位置準器Kヲ設ケ下部ニハH外器ト相接シテEMナル輓車及圍
坐裝置ニ依テ通電氣ノ考ニス。G納器ノ下部ニ中心桿ハH外器
ヲ通シテナル木字形ノ突條アリテGハニ器ノ密接ヲ嚴ニス。
Hナル外器ハ普通羅針儀裝置ニヨリ船舩ノ側動及舂動ヲ感セ
シメサル如クス。

乙、針路指標

A 器ノ調整

船舩ノ針路定ミタル后針路報知器ノ調整ヲ為ス。A器ノH固定
螺ヲ緩シテ之ヲ以テG納器ヲ回轉シC磁鍼ヲD裝置ノ中央ニナス
テ了テH固締螺ヲ締ム。

H螺ヲ緩シテI羅盤板ノ針路(例ニ北、東、南、西)ヲ針路指標ニ相
一致セシメテ之ヲ締ム。

(備考) I羅盤板ハHナル螺扣ニ依リテ之ヲ揚開シD裝置ヲ實

視スルニ供ス

Y電線ヲONニナス

A器ノ作動

於此一定ノ針路ニ偏スル片ハ磁鐵Cノ一端ハD裝置ノ丁ト相觸接レ
 茲ニ電流全通シ震鳴鐘P(S)ヲ鳴動シテ之ヲ報ス可シ然レニ
 其電路中ナルV線係ハ其裝置電流通スル片ハC端ト同極トナルヲ
 以テC端ヲ排去シ茲ニ暫時之ヲ隔絶セシメ以テ震鳴鐘ノ鳴動ヲ中
 止ス可シ然レニ針路ニシテ尚正位ニ保持セシガル片ハ角ヒC磁端ハ丁ト
 相接觸シ直テ鳴動シ之ヲ報知スルト同時ニ又前ト相同シク排去シテ
 之ヲ中止ス可シ此ノ如クシテ正針路ヲ保持スルヲハ始終此種動作ヲ
 保持続ス可シ此ノ如キ一種ノ裝置ヲ設クルハ連続震鳴スルトC端ノ丁
 ト電着ス(實際ニル)トテ豫防セントスルニイリ

方位照準器

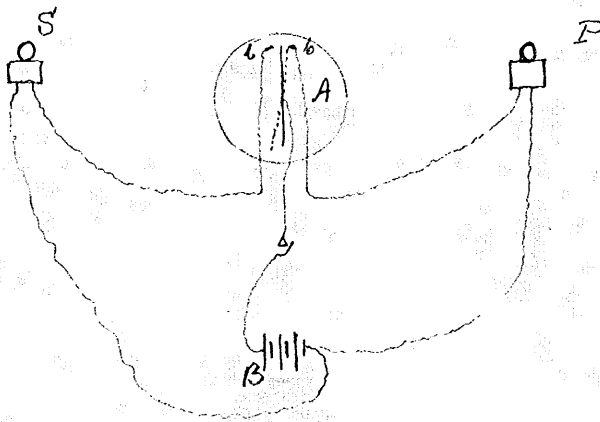
方位照準器ハ、工羅盤板上ニ螺ヲ中心トシテ装置セラル工羅盤
 板ハ其構造普通、モノト異ナリナシ而シテ其針路ニ固定セラルコトヲ
 直ニ此照準器ヲ以テ任意方位ヲ照準シ得可シ
 工羅盤板ハ一ハ以テ此方位照準ノ目的、供シ一ハ以テ針路ヲ確認
 置クノ便、供スルアリ

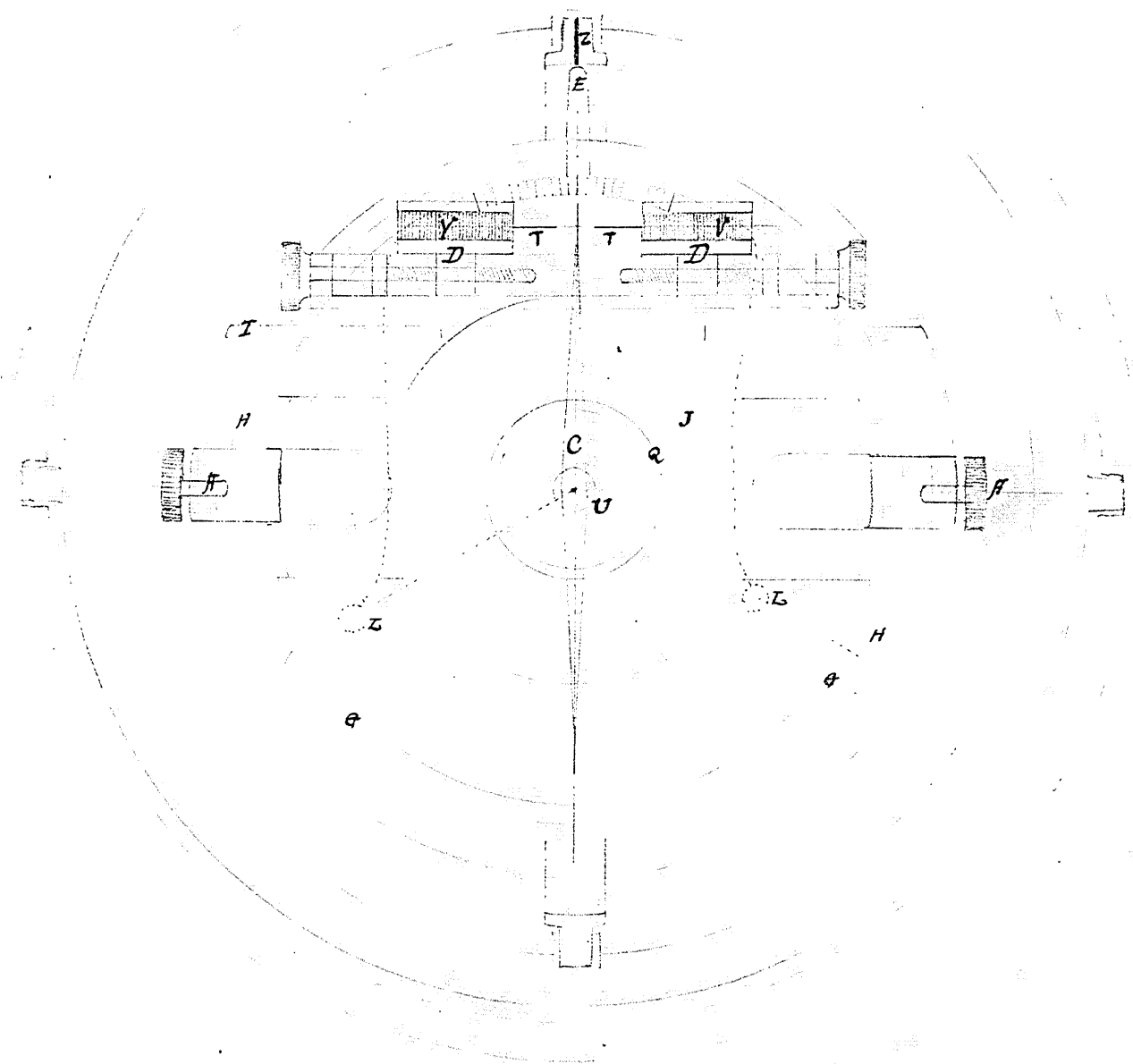
海

軍

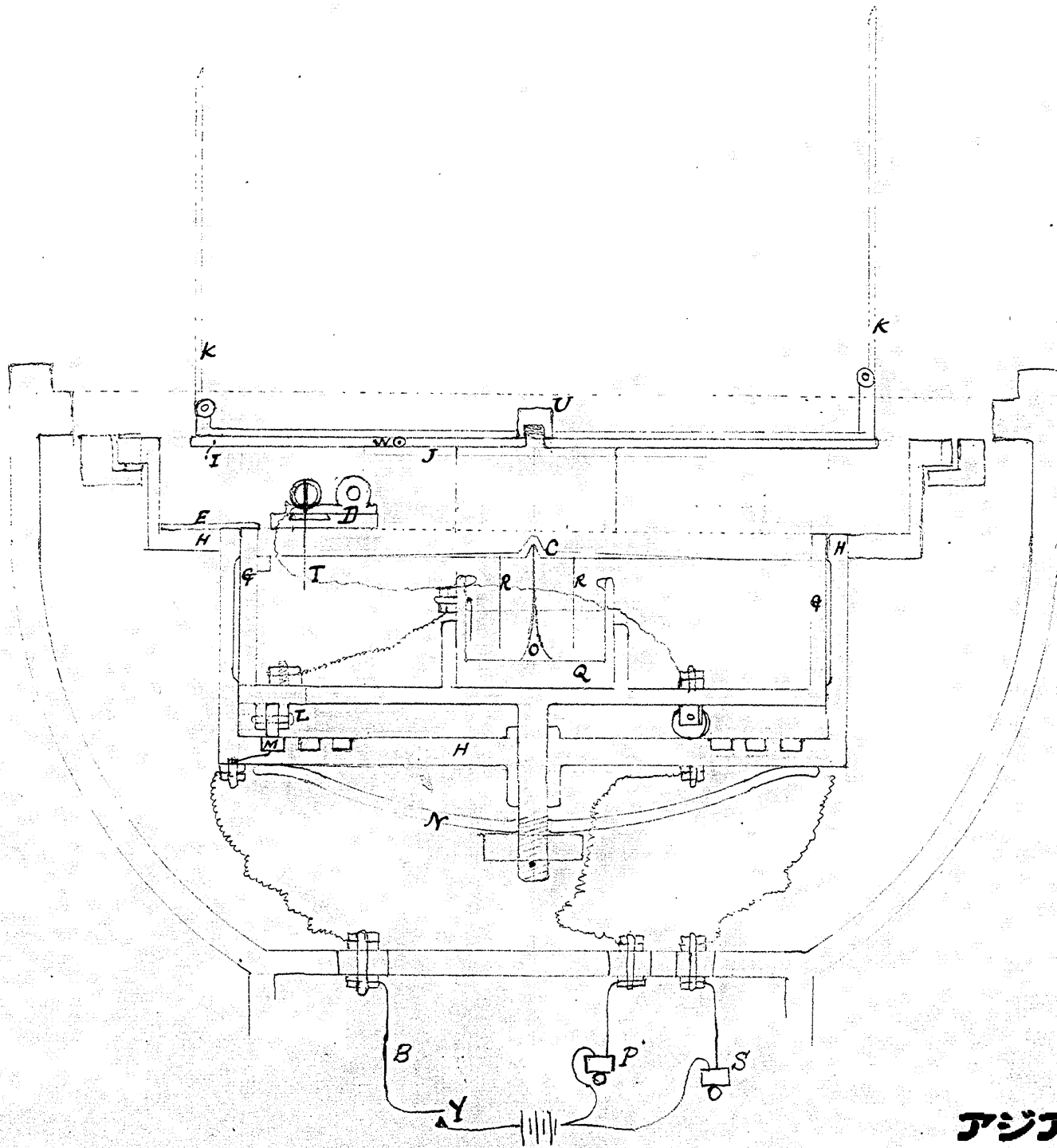
0763

第一圖





0764



0765